



奥様憧れのアイランドキッチン。スタイリッシュに…という要望も叶えつつ機能的な生活動線に。



吹き抜けの大きな窓も位置を計算すれば、カーテンなしでプライベートを守れるデザイン設計になります。



▲リビングからダイニング、キッチンへと繋がる大きなワンフロアの空間。2階へと続く階段部分は吹き抜け。上部に設けた窓から光が東になって降り注ぎます。



設計・監理 中道哲也
【建築デザイン総合研究所スタジオパートスリー】

建てようネット【和歌山】で建てた新築第33号!

| 新築工事スケジュール | 住宅データ |
|---------------------------|---|
| 〈基本設計期間〉 H21年4月～H22年1月 | 家族構成／ご夫婦、お子さん2人 |
| 〈実施設計期間〉 H22年2月～4月 | 構造／鉄骨造 |
| 〈見積もり依頼期間〉 H22年4月～5月 | 建築面積／ 161.29 m ² (約48.79坪) |
| 〈起工〉 H22年6月 20日 | 延床面積／ 1F 123.72 m ² (約37.42坪) 2F 63.25 m ² (約19.13坪) 計 186.97 m ² (約56.55坪) |
| 〈上棟〉 H22年10月 10日 | 敷地面積／ 487.66 m ² (約147.51坪) |
| 〈完成・引渡し〉 H23年4月末 | 屋根／ シート防水 外壁／ アクリル系微弾性塗料吹付カキ オトシ |

設計・監理



Tetsuya Nakamichi
中道哲也
建築デザイン総合研究所スタジオパートナー
1963年生まれ。25歳のとき我流で建築
事務所を立ち、その後同門三井・中

施工



巧細川組株式会社

「これからのお住まいを考える上で、安心・安全は欠かせないものの一つ。世界的に見ても地震の多い国（日本）で暮らす安心・安全の対策、東日本大震災をきっかけに、その思いはますます強まっています。今、その中で注目される「鉄骨住宅」。今回紹介する「西浜の家」にも鉄骨が採用。建築デザイン総合研究所「スタジオバートスリー」の中道哲也さんが設計・監理を務め、トータルプロデュースしています。

「1階は大きな吹き抜けのあるワンフロアのデザイン。リビング、ダイニング、キッチンを一つの空間にまとめることで、さらに広く、驚きの開放感。「夫婦の個室にまとめる」というアイデアを実現したこと、繋がりと広がりを拡張しています。実際の床面積よりもかなり広く見えるでしょう」と中道さん。計画当初は木造で予定。ところが風の強さなど西浜という土地が持つ風土で、「夫婦が希望するデザイン構造を考え、鉄骨に踏み切りました。鉄骨のメリットは何といつても強度と耐震性の高さ、防音効果にも優れています。ただ施工に手間がかかる」ともあり、木造ではなくて値段がやや高め。中道さんは「鉄骨は強度や耐震性に注目が集まりがちですが、実は快適性を求めるデザインの自由度も格段にアップするのです」と。

リビングからダイニング、キッチンに繋がる30畳以上の大きなワンフロアを実現する場合、木造では強度の問題にぶつかり、デザインに規制が出てきます。鉄骨なら強度を保持したまま問題をクリア。さらに中道さんが言うには「光の自由度」のこと。アップするのだと。光の自由度とは「窓」のデザインのこと。鉄骨にすることで窓の大きさ、位置にも広がりが出でります。空間をデザインする場合、窓の位置や大きさが快適さが開放感に大きく影響してきます。それがたかが5cmであっても、室内空間の中では、青空が見える、見えない、大きな差に繋がります。もちろんそれは光と風の入り方にも直結。窓が開け放しで、窓の外の風が吹き込むことで、室内の空気循環のこだわりとなり、居心地の良い日々の快適生活を支えてくれるワケです」。

吹き抜けの上からフロアに降り注ぐ光の束。リビングなど、家族団らんのすべてのスペースを温かく包み込みます。しかも高位置に設定することで入射角度を調節し、陽射しがわから。程よい光の増加が更場の室内温度を下げてエコロジーにも、地球上にも家計にも優しい住まいです。「木造でも考え方には常に一緒に、それぞれの部屋の用途に適した光や風の分量を計算し、ベストバランスを見つけてください！」

安心・安全に
プラス快適性
憧れの鉄骨住宅

和歌山市
西浜の家

Wakayamashi
Nishihamanoie